

鮫人

谷崎潤一郎

不擇南州尉

高堂有老親

樓臺重蜃氣

邑里雜鮫人

海暗三山雨

花明五嶺春

此鄉多寶王

慎勿厭清貧

(岑參)

第一篇

或る藝術家の憧れあこが

第一章

その頃服部はもう一年近く其處に住んで居た。それは三四年前から始まつた。欧て洲大戦がまだいつ終るとも見えなかつた。千九百十八年の春の半ば過ぎのこととて、彼れが住んで居た家は、淺草の本願寺の裏の方にある、松葉町の露地の奥の長屋だつた。戦争以来世間の好景気につれて、東京の市中や郊外には粗悪な